

## 平成 26 年 度 事 業 報 告 書

法人の名称 特定非営利活動法人フェアスタートサポート

### 1 事業の成果

児童養護施設や里親など支援する側へ情報提供を行う勉強会も新たに始め、団体の活動内容の積極的な広報によって、多くの施設から就職に関する多彩な支援依頼を受ける事ができた。

### 2 事業内容

#### (1) 特定非営利活動に係る事業

① 児童養護施設、自立援助ホーム入所児童などの社会的養護の下で生活をする児童へのキャリア教育事業に関する事業

##### ア パソコン教室

- ・内 容 児童養護施設に入所中の児童を対象とした、施設内でのパソコン教室の開催。
- ・日 時 5月～12月 月に2回（聖母愛児園）  
3月～7月 月に2回（手まり学園）
- ・場 所 児童養護施設 聖母愛児園（横浜市）、手まり学園（相模原市）
- ・従事者人員 20人
- ・受益対象者 児童養護施設入所中の児童 40人
- ・支出額 587,570円

##### イ 料理教室

- ・内 容 児童養護施設に入所中の児童を対象とした、施設内での料理教室の開催。
- ・日 時 2月、5月、7月、10月に各1回 計4回
- ・場 所 児童養護施設 聖母愛児園（横浜市）
- ・従事者人員 7人
- ・受益対象者 児童養護施設入所中の児童 6人
- ・支出額 128,572円

##### ウ 通い型教室（IT、英会話）

- ・内 容 児童養護施設をはじめとする社会的養護の施設に入所する児童を対象とした、通い型の教室各種。プログラミング教室は開催しましたが、予定していた英会話の教室は実施しませんでした。
- ・日 時 プログラミング教室は8月に2日間にわたり開催。
- ・場 所 品川の協力企業オフィス
- ・受益対象者 児童養護施設入所中の児童 15人
- ・従事者人員 4人
- ・必要経費 294,500円

##### エ 社会的養護のもとで暮らす若者の就職相談事業

- ・内 容 児童養護施設や自立援助ホームなどの社会的養護のもとで暮らす若者の就職の際の相談にのり、就労体験や会社見学など必要なステップへとつなげ、ミスマッチのない就職を目指す。
- ・日 時 依頼に応じて随時 通年計 48件
- ・場 所 関東圏を中心とした児童養護施設、自立援助ホーム

- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 関東圏の児童養護施設等に入所中の児童
- ・支出額 1,537,731円

#### オ 就労体験事業

- ・内 容 社会的養護の児童を対象とした、就労体験の受け入れ企業とのマッチングとコーディネート。実際に就職する前に興味がある職種を体験する事で、ミスマッチによる早期離職を防ぐ。
- ・日 時 依頼に応じて随時 通年計24件
- ・場 所 各受け入れ先企業
- ・従事者人員 4人
- ・受益対象者 児童養護施設に入所中の児童 人
- ・支出額 508,540円

#### カ 会社見学ツアー

- ・内 容 児童養護施設入所中の児童を対象とした一泊二日の会社見学ツアー。様々な職種の企業や職場を実際に見て話を聞く事で、仕事に対するイメージを膨らませ、職業の選択肢の幅を広げる。
- ・日 時 8月21日～22日
- ・場 所 東京都内、横浜市内の各企業計3社
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 児童養護施設に入所中の児童 4人
- ・支出額 377,860円

#### キ 社会的養護の対象児童である高校3年生と企業との交流会

- ・内 容 児童養護施設等の施設や里親家庭で暮らす高校3年生と企業が複数集まり、合同で交流会を開催した。各企業がブースを出して会社の仕事を紹介したり、高校生達が企業へ就職活動に関する質問をする時間を設けたりした。
- ・日 時 7月、8月に各1回 全2回
- ・場 所 横浜市市民活動支援センター4階 ワークショップ広場
- ・従事者人員 4人
- ・受益対象者 関東圏の児童養護施設等の施設や里親家庭で暮らす高校3年生
- ・支出額 527,063円

#### ク 社会的養護対象者専門の情報誌「エール」発行事業

- ・内 容 社会的養護で育った後に社会人として自立した20代の若者、3～40台の大人のインタビュー等を集めた冊子「エール」を創刊し全国の児童養護施設に無料送付する。
- ・日 時 取材、デザイン等の制作は行ったものの、平成26年度内の発行には間に合わなかった為、年間を通じて制作過程であった。
- ・場 所 東京都内、横浜市内各地にて取材、打ち合わせ、撮影、デザイン
- ・従事者人員 10人
- ・受益対象者 関東圏の児童養護施設等の施設や里親家庭で暮らす高校3年生
- ・支出額 914,908円

ケ 支援者向け就職情報連続勉強会

- ・内 容 児童養護施設等の児童福祉施設職員、里親、支援員等を主な対象とした勉強会を開催した。児童へのキャリア教育の一環として児童に接する支援員への教育の必要性を感じ、今年度より開始した。  
障害のある若者の就労方法や、若年層のキャリア形成について、連携企業や団体を講師に招いて行った。支援員だけでなく一般の方も参加できる勉強会とし、課題発信の場としている。
- ・日 時 5月から12月 2か月に一度、各回東京と横浜の2回ずつ 全8回
- ・場 所 横浜市市民活動支援センター、協力企業品川オフィス
- ・従事者人員 3人
- ・受益対象者 関東圏の児童福祉施設の職員や里親、支援員、一般の方
- ・支出額 437,706円

②児童養護施設、自立援助ホーム退所者等の社会的養護の下を巣立った若者の就職後のアフターフォロー事業

- ・内 容 社会的養護の下を巣立ち就職した若者と、様々な職種の社会人、学生ボランティア等による交流イベントを行い、また個別相談の機会を設ける事で、就職したての若者の就労が持続する為のサポートを行う。
- ・日 時 交流イベント：1月、3月、8月、12月に各1回 計4回  
個別相談：随時
- ・場 所 神奈川県内の神社、スポーツセンター、横浜市技能文化会館等
- ・受益対象者 社会的養護の下で育った若手社会人、その他一般人 約40人
- ・従事者人員 5人
- ・支出額 584,464円